

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(4月13日～4月19日)

2019年4月25日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

●ルカシェンコ大統領長男のヴィクトル氏が国内五輪委員会の第一副会長に任命(4/15)

●ルカシェンコ大統領の議会と国民に対する教書演説(4/19)

●オストロヴェツ原発関連の動き(4/14-16)

(4/14 ベラパン通信)

内政・外交

【ルカシェンコ大統領動静】

●トルコ公式訪問(4/16)

・16日、エルドアン大統領との首脳会談

ルカシェンコ大統領は、向こう5年間の目標は、貿易高を最低でも現在の1.5倍に高めることと発言。

成果文書として、教育分野の政府間協定、両国法務省間の協力覚書、ベラルーシ国家軍需産業委員会とトルコ大統領府防衛産業幹部会との相互理解覚書が結ばれた。この他、ベラルーシ国立科学アカデミーとトルコ産業発展省が南極における学術・技術協力覚書に署名。さらに、ベラルーシ国立科学アカデミーとトルコ学術研究評議会との2019年から2021年までの協力発展ロードマップも署名された。

(4/16 大統領公式サイト)

●ドバイ金融センター代表者との会談(4/18)

ベラルーシにおける類似のセンター設立に向けた協議を実施。

(4/18 大統領公式サイト)

●議会と国民に対する教書演説(4/19)

【内政】

●プレストの鉛蓄電池工場建設反対運動の動き

プレスト市内の自由経済区「プレスト」における工場建設に対して、2018年1月以降継続している反対運動に関連し、12日、同市内で行進や集会を行った活動から10人が身柄を拘束された。14日にも5人が身柄を拘束された。

●ルカシェンコ大統領長男のヴィクトル氏が国内五輪委員会の第一副会長に任命(4/15)

15日、国内五輪委一行委員会会合の際に同決定が下された。43才のヴィクトル氏は、国家安全保障担当大統領補佐官のポストにも留まる。なお、39才のルカシェンコ大統領次男ドミトリー氏は2005年から大統領スポーツクラブのトップを務めている。

(4/15 ベラパン通信)

●大統領府近くで約10人がクロパティ犠牲者に祈り

15日、大統領府近くで約10名が約40分間に亘り祈祷。無政府主義者コシネロフ氏夫妻や「欧州のベラルーシ」運動コーディネータのアフナゲリ氏が身柄を拘束された。

(4/15 ベラパン通信)

【外交】

●ベラルーシとカザフスタンの議会間委員会が無人航空機の共同生産について議論

15日、ミンスクで開催されたベラルーシ・カザフスタン両国議会上院の議会間委員会イノベーション発展協力小委員会の第一回会合において、カザフスタンにおいて無人航空機を共同生産する計画が議論された。会合ではまた、光学電子機器・システムの分野での協力も議題となった。同会合の共同議長を務めたのは、ベラルーシ側はラフマノフ上院国際問題国家安全保障常設委員会委員長、カザフスタン側はムカシェフ同国上院国際関係・防衛・安全保障委員会書記。ラフマノフ議員は、ベラルーシ側は早期のプロジ

エクト開始に関心を持っている旨表明。

(4/15 ペラパン通信)

●マケイ外相がチャウショグル・トルコ外相と会談

15 日、両外相はルカシェンコ大統領のトルコ公式訪問の準備の一環として会談。国連機関の選挙における相互支持などの両国の共通アプローチを指摘。

(4/15 外務省公式サイト)

●フランス議会上院代表団がベラルーシを初訪問

(4/15-19)

仏上院財務委員会副委員長であり仏・ベラルーシ友好グループ会長を務めるシャルル・ゲネ議員率いる訪問団が来訪。ミヤニコヴィチ上院議長、ミクラシェヴィチ憲法裁判所長官、クラフチェンコ外務次官らと会談した他、ポリソフ市やグロドノ市など地方にも訪問。

16 日のミヤニコヴィチ上院議長との会談では、仏側はハイテク分野でのベラルーシとの協力に関心を示した。会談後、シャルル・ゲネ議員は記者団に対して、「ミヤ」上院議長がベラルーシにおける死刑存続問題について触れたと明かし、「ベラルーシは進化を遂げなければならないが、各国にはそれぞれの歴史もあり、自国のリズムで発展していることにも理解が必要である」旨発言。

(4/16 国営ベルタ通信)

●ベラルーシ国立大学にベラルーシ・中国共同研究所が開設

同研究所では9月1日から、「工学及び数学デザイン」、「物理学」、「世界経済」の教育が実施されるほか、中国語教育も予定。最初の募集定員は120名。カリキュラムやプログラムはベラルーシ・中国双方によって策定・承認され、最新の学術・技術・産業の成果に応じて実践される。同研究所の卒業生は、ベラルーシ国立大学と大連工業大学の両方の卒業証書を受け取る。2020年には修士課程の開講を予定。

2017年に署名された合意に基づいて、大連工業大学内にもベラルーシ国立大学との共同研究所が設

立され、159人の中国人学生が「応用物理学」と「工学」のコースで学んでいる。

(4/15 国営ベルタ通信)

経済

【国内経済】

●建設中のオストロヴェツ原発関連の動き

・シリアノフ露副首相兼財相は 13 日、ワシントン D.C. で開催中の世銀・IMF 春季会合の場で記者団に「ミンスクから提案されている原発建設のための融資の利率縮小と返済期限延長について、ロシアはまだ何も決定していない」旨説明。

(4/14 ペラパン通信)

・ミハデク・エネルギー省次官の発言：「オストロヴェツ原発の事故停止時に停電回避を可能にする 800MW 級のピーク予備電源の創設は 2021 年にも完了する。現在は施設選定の競争審査を実施中。資金の誘致に対する協力も選定の条件の一つ。」

(4/15 国営ベルタ通信)

・16 日、仏上院議員団を率いてベラルーシを訪問中のシャルル・ゲネ仏上院財務委員会副委員長は、原発の安全対策でフランスがベラルーシに協力する用意がある旨記者団に発言。

(4/16 ペラパン通信)

●ミンスク自動車工場(MAZ)の 2018 年の赤字額が 8,040 万ベラルーシ・ルーブルに拡大。

赤字規模は 2017 年比で 94.2%拡大。同社は 2014 年以降、連続で赤字を計上。

(4/18 ニュースサイト TUT.BY)

●ミンスクに三菱自動車のショールームが開所

ミンスク市内のコレスニコフ通り 38 番地に開所。ディーラーはパラード・アフ社。

(4/18 ニュースサイト TUT.BY)

【対外経済】

●ウクライナが非ロシア産石油の輸送のため、自国の鉄道インフラを好条件でベラルーシ提供する用意

同情報をもたらした交渉筋によると、いずれにせよ、非ロシア産石油購入に関連する物流費用は、パイプラインを通じたロシア産の炭化水素原料の購入より高くつくとのこと。なお、ウクライナ経由では、アゼルバイジャン産、カザフスタン産、サウジアラビア産の原油が調達可能であり、かつてはベネズエラ産原油がウクライナのオデッサ―ブロディ間パイプライン経由でベラルーシに輸送されたこともある。

(4/15 ペラパン通信)

●ドバイ金融センター代表団がハイテクパークを訪問(4/18)

同センターとハイテクパークがイノベーション増強で協力する可能性を詳細に検討することで一致。会合にはトゥルチン第一副首相、ヤロシェヴィチ経済省次官も参加。

(4/18 ペラパン通信)

【治安・軍事】

●北大西洋条約機構(NATO)代表団がベラルーシを訪問(4/14-17)

NATOと旧ソ連諸国との信頼醸成のためのプログラム「平和のためのパートナーシップ」の一環での来訪。ベラルーシ国防省国際軍事協力局長兼国防大臣補佐官のオレグ・ヴォイノフ少将と訪問団長であるポール・サヴェリョー連合本部防衛計画課長との会談が行われ、今後の協力の展望と地域の安全保障問題について議論が交わされた。

(4/17 ペラパン通信)

(了)